

1 基本理念

南海トラフ巨大地震などの大規模災害に対して、本市による対策だけでは限界があるため、自助・共助・公助の考え方に基づき、本市・市民・事業者の主体的な取組みと相互に連携協力を図ることを基本理念とし、本市の防災・減災対策を推進する。

大阪市防災・減災条例 第3条

(基本理念)

防災・減災は、自らのことは自らが守るという自助の考え方、地域において互いに助け合うという共助の考え方及び行政が市民等及び事業者の安全を確保するという公助の考え方に基づき、本市、市民及び事業者がそれぞれの責務と役割を果たし、相互に連携を図りながら協力することを基本理念として行われるものとする。

2 責務と役割の明確化

区役所

- ▶ 区地域防災計画の作成
- ▶ 自主防災活動への支援
- ▶ 災害時の市民生活の安定を図るための業務継続計画の作成

区民

- ▶ 自宅等の安全性の確保や防災知識の習得
- ▶ 防災訓練への参加
- ▶ 自主防災組織の結成

事業者

- ▶ 事業所等の安全性の確保や防災資機材の整備
- ▶ 防災訓練への参加
- ▶ 防災、減災計画や災害時の事業継続計画の作成

1 地震に対する備え

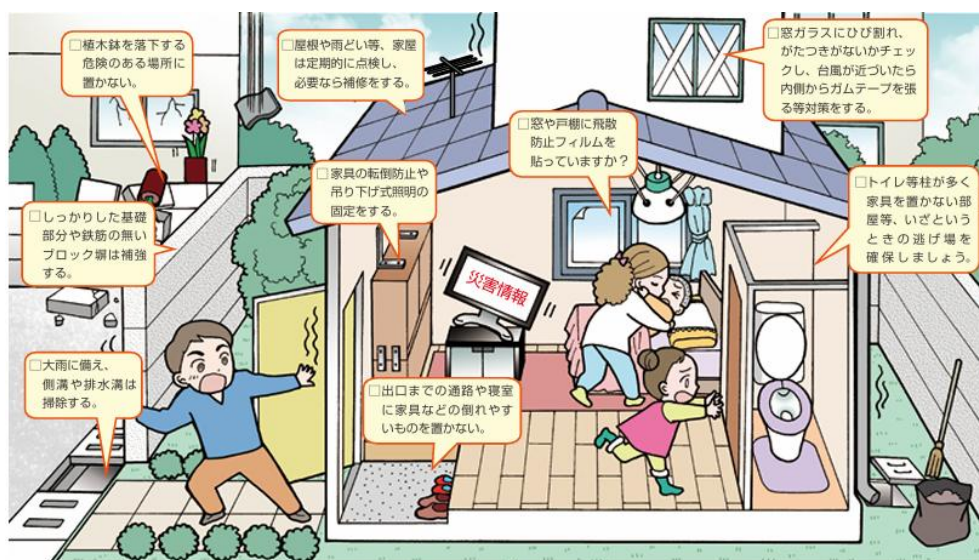
(1)地震から身を守るため

▶ 家族一人ひとりの役割を決める

家族で話し合っ、災害発生時の役割を決めておきましょう。

▶ 危険箇所をチェックする

家の内外に危険箇所がないかどうかチェックしましょう。家具類の転倒・落下から身を守るため、家具類の固定や配置の見直しをしましょう。



▶ 「非常持ち出し品」と「非常備蓄品」をチェックする

必要な物品がそろっているか確認します。また、定期的に保存状態や消費期限を点検し必要なら交換しましょう。

非常持ち出し品		
<p>●貴重品</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 現金（公衆電話用に10円玉も） <p>●飲料水・非常食</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 缶入り乾パン <input type="checkbox"/> 飲料水（500mlペットボトル） <p>●救急袋</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 毛抜き <input type="checkbox"/> 消毒薬 <input type="checkbox"/> ガーゼ（滅菌） <input type="checkbox"/> 包帯 <input type="checkbox"/> 脱脂綿 <input type="checkbox"/> ばんそうこう <input type="checkbox"/> 三角巾 <input type="checkbox"/> 常備薬・持病薬など 	<p>●衛生用品</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> アルコール消毒薬 <input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> 台所用洗剤 <input type="checkbox"/> 手洗い洗剤 <p>●情報・照明</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯（できれば1人に1つ） <input type="checkbox"/> ローソク <input type="checkbox"/> 携帯電話の充電器・モバイルバッテリー 	<p>●生活用品</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ライター <input type="checkbox"/> 十徳ナイフ <input type="checkbox"/> 軍手・手袋 <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> 簡易トイレ※1 <input type="checkbox"/> トイレレットペーパー <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> レジャーシート <input type="checkbox"/> サバイバルブランケット <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 油性マジック（太） <input type="checkbox"/> 布製ガムテープ <input type="checkbox"/> ポリ袋 <input type="checkbox"/> ラップ（止血・食器覆い用） <input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉・洗口液

個人や家庭の事情にあわせ備えを検討するもの

必需品・貴重品類	赤ちゃん用品	高齢者用品	女性用品※2
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 預貯金通帳 <input type="checkbox"/> 鍵（自宅・車等） <input type="checkbox"/> 予備メガネ・コンタクトレンズ等 <input type="checkbox"/> お薬手帳 <input type="checkbox"/> 義歯 <input type="checkbox"/> 支援プラン（一人で避難することに不安がある方） <input type="checkbox"/> 本人確認書類（運転免許証、健康保険証、マイナンバーカード、パスポート・在留カード・特別永住者証明書等）のコピー 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 粉ミルク <input type="checkbox"/> 哺乳瓶 <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> おやつ <input type="checkbox"/> スプーン <input type="checkbox"/> 着替え <input type="checkbox"/> 洗淨綿 <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> ガーゼ <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> バスタオル <input type="checkbox"/> おしりふき <input type="checkbox"/> おんぶひも <input type="checkbox"/> 玩具 <input type="checkbox"/> 母子手帳 <input type="checkbox"/> ベビーカー 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 予備メガネ <input type="checkbox"/> おむつ <input type="checkbox"/> 看護用品 <input type="checkbox"/> 着替え <input type="checkbox"/> 持病薬 <input type="checkbox"/> おしりふき 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> サニタリーショーツ <input type="checkbox"/> おりものシート <input type="checkbox"/> 中身の見えないごみ袋 <input type="checkbox"/> 持病薬 <input type="checkbox"/> 防犯ブザー / ホイッスル

リュックサックなど両手が自由に動かせるものに入れておき、いつでもすぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。

家族構成を考え必要最小限に絞り込み、一度背負ってみましょう。

● 家庭に備えておくもの

非常備蓄品

●飲料水・非常食	<input type="checkbox"/> 皿（紙・ステンレス）	<input type="checkbox"/> 新聞紙（保温・火種などに）
<input type="checkbox"/> 飲料水（1人1日3ℓ目安に）	<input type="checkbox"/> スプーン <input type="checkbox"/> フォーク	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ
<input type="checkbox"/> 非常用給水袋・給水タンク	<input type="checkbox"/> わりばし	
<input type="checkbox"/> アルファ米 <input type="checkbox"/> 乾パン	<input type="checkbox"/> コップ（紙・ステンレスなど）	●その他
<input type="checkbox"/> パン缶 <input type="checkbox"/> インスタントラーメン	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ <input type="checkbox"/> ガスボンベ	<input type="checkbox"/> ブルーシート
<input type="checkbox"/> 缶詰 <input type="checkbox"/> レトルト食品	<input type="checkbox"/> 固形燃料 <input type="checkbox"/> 鍋 <input type="checkbox"/> やかん	<input type="checkbox"/> キャリーカート（給水所から給水袋や給水タンクを運ぶ際に使用）
<input type="checkbox"/> スープ <input type="checkbox"/> 味噌汁 <input type="checkbox"/> 塩	<input type="checkbox"/> 石鹸 <input type="checkbox"/> 簡易トイレ※1	<input type="checkbox"/> 布製ガムテープ（荷物の整理・止血・ガラス等の補修）
<input type="checkbox"/> ビスケット <input type="checkbox"/> キャンディ	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉・洗口液	
<input type="checkbox"/> チョコレート	<input type="checkbox"/> ドライシャンプー	
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー	
●衣類	<input type="checkbox"/> ティッシュペーパー	
<input type="checkbox"/> 上着 <input type="checkbox"/> 下着 <input type="checkbox"/> 靴下	<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ	
	<input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> アルコール消毒薬	
●生活用品	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 予備電池	
<input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> バスタオル	<input type="checkbox"/> 携帯電話の充電器・モバイルバッテリー	
<input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> ラップ	<input type="checkbox"/> 安全ピン	
<input type="checkbox"/> アルミホイル		

避難後に少し余裕がでてから安全を確認して自宅に戻り、持ちだしたり、自宅で避難生活を送るうえで必要なもので、救援物資が届くまでの1週間程度、自足するつもりで備えましょう。

▶ 防災用具をチェックする

消火器や救急箱を確認しましょう。また消火器の使い方や応急手当の方法を覚えておきましょう。

▶ 緊急連絡カードを用意する

家族の避難場所や集まる場所、家族の連絡方法などを話し合い、決めたことは緊急連絡カードとして記入したものを携帯するようにしましょう

▶ わが家の防災マップをつくろう

家族で避難場所や避難路などを確認し、わが家の防災マップを作成しましょう。

2 風水害に対する備え

(1) 風水害から身を守るために

○気象情報に注意する

テレビやラジオ、電話(177)、インターネットなどを利用して、気象庁から発表される警報・注意報や、区役所・消防署からの情報に注意しましょう。

○むやみに外出しない

台風が接近しているときや豪雨のときは、外出しないようにしましょう。

やむを得ず外出する際は、気象情報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないようにしましょう。特に堤防・海辺・河川への見物は事故のもとです。

○風が強いとき

▶ 路上にいるとき

強風で瓦や看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりします。

無理して歩かず近くの頑丈な建物に避難しましょう。

▶ 屋内にいるとき

風圧や飛来物で窓ガラスがわれ、破片が吹き込む危険があります。

風が強いときは窓に近づかないようにしましょう。

○大雨のとき

▶ 川辺にいるとき

豪雨により、川が急に増水する危険があります。川などに近づかないようにし、避難情報が出れば、速やかに建物の2階以上へ避難しましょう。なお、強風や豪雨の時には、防災スピーカーからの避難情報が聞こえないこともあるので、十分に注意しましょう。

▶ 車の運転をしているとき

視界が悪く、ハンドル操作やブレーキがきかなくなることもありますので、運転は控えましょう。また、アンダーパスなど道路冠水のおそれがある場所は通らないようにしましょう。

▶ 路上にいるとき

浸水してきたら、しっかりと建物の2階以上に避難しましょう。その際は、なるべく階段を使って上の階へ行きましょう。また、水路・側溝は水量が増して危険ですので、近づかないようにしましょう。

▶ 自宅にいるとき

大雨で下水から水があふれてくる「内水氾濫」に注意しましょう。想定外の雨が一時的に降った場合、側溝や排水溝がごみや落ち葉等で詰まれば、水が流れなくなり、溢れてくることがあります。日頃から清掃を行いましょう。

(2) 風水害時に避難する時は

▶ 1、2 階建ての木造住宅やマンションの低層階など浸水のおそれがある階にお住まいの方

水害時避難ビルに指定されている災害時避難所や建物、近くの高い建物に避難

▶ マンションの2階以上など、浸水のおそれがない階にお住まいの方

自宅の安全な場所で待機し、安全を確保

▶ 動きやすく安全な格好で避難

ヘルメットや防災頭巾など風でとばされてくるものから頭を保護し、すべりにくい靴を履きましよう。裸足や長靴は危険です。荷物は最小限に、両手がふさがらないようにしましょう。

▶ 深さに注意

歩行可能な浸水は、男性70cm、女性で50cmが目安です。ただし、くるぶし程度の浸水でも、流れが激しい場合は歩行せず高いところで救援を待ちましょう。

▶ 足元に注意

水面下にはふたの外れたマンホールや側溝などの危険な場所があります。長い棒などを杖代わりにして足元の安全を確認しながら歩きましょう。

▶ 一人で行動しない

隣近所に声をかけて集団で避難しましょう。

▶ 子どもや高齢者などへの配慮

高齢者や病人等は背負い、子どもには浮き輪をつけて安全を確保しましょう。

3 火災に対する備え

生野区においては、狭い道路が多く、住宅密集地が分布していることから、大規模な地震発生時は、大規模火災の発生が想定されます。

大規模な地震発生時には、揺れに伴う電気機器の転倒等により可燃物に接触する火災や、停電から電気が復旧した時に発生する通電火災などの電気火災が発生し、東日本大震災における本震による火災のうち、原因が特定されたものの過半数が、電気関係の出火であったというデータもあることから、地震による電気火災を防ぐためのそなえが重要となります。

○事前の対策

- ▶ 住まいの耐震性を確保
- ▶ 家具等の転倒防止対策を行う。
- ▶ 感震ブレーカーを設置
- ▶ ストーブ等の暖房機器の周辺は整理整頓し、可燃物を近くに置かない。
- ▶ 消火器等を設置し、使用方法について確認
- ▶ 火災警報器を設置

○地震直後の行動

- ▶ 停電中は電気器具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- ▶ 避難するときは、ブレーカーを落とす。
- ▶ 石油ストーブや石油ファンヒーターからの油漏れの確認

○地震発生からしばらくして(電気やガスの復旧、避難からもどったら)

- ▶ ガス機器、電気器具及び石油器具の使用を再開するときは、機器に破損がないこと、近くに燃えやすいものがないことを確認。
- ▶ 再通電後は、しばらく電気器具に異常がないか注意を払う。(煙・におい)

4 自主防災組織の確立による地域防災力の向上

地域における自助・共助を推進し、市民の皆さんや自主防災組織の取組みを通じて、防災力向上を図ります。

- ▶ 地区防災計画の作成、自主防災活動の推進
- ▶ 毎年1回以上の防災訓練の実施
- ▶ 避難や災害に関する情報収集
 - ・あらかじめ避難場所や避難経路等の確認をしておく。
 - ・災害発生時やそのおそれがある時には、自ら積極的に情報収集を行う。
- ▶ 避難場所の確保 ・地域の特性に応じて、施設管理者の協力を得て、あらかじめ水害による浸水から避難することのできる場所の確保に努める。
- ▶ 災害時の避難所運営への協力
- ▶ 避難行動要支援者の避難支援
 - ・自主防災組織は、避難行動要支援者の避難支援に関する計画を作成し、必要な取組を行うよう努める。

▶ 地区防災計画の作成

・地区防災計画とは、災害対策基本法(平成 25 年改正)によりおおむね小学校区ごとに、自主防災組織を中心に地域住民が主体となって自助・共助の観点で策定する地域の防災計画です。この計画には、平常時や災害時におけるさまざまな事項や過去の訓練や新たな取組みをまとめ、地域全体の防災体制や行動力を高めるものであり、また、地域を取り巻く環境の変化に柔軟に見直しを図りつつも地域の中で伝承され地域の財産となりうるものです。

5 地域特性をふまえた災害リスクへの対応

事業者等は、次のことに取り組みます。

- ▶ 豪雨等による浸水被害の防止・軽減対策
- ▶ エレベーター閉じこめ防止対策
- ▶ 建築物の不燃化など市街地の防災構造の改善
- ▶ 一斉帰宅抑制の推進
- ▶ ターミナル駅周辺での帰宅困難者対策の推進

6 多様な主体による参加・参画推進

区役所は、女性や高齢者、障がい者など、さまざまな人が防災・減災対策に参画しやすい環境づくり、および、ニーズに応じた備蓄品目の拡充など、要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児等)に配慮した防災・減災対策を進めます。

7 企業・学校・社会福祉施設等の取り組む防災

企業・学校・社会福祉施設等の役割として、災害時に備え、あらかじめ、災害時に事業継続ができるよう、平常時からBCP(事業継続計画)等の取組みに努めます。

BCP において重要な取組は、例えば、

- 各担当者をあらかじめ決めておくこと(誰が、いつ、何をするか)
- 連絡先をあらかじめ整理しておくこと
- 必要な物資をあらかじめ整理、準備しておくこと
- 上記を組織で共有すること
- 定期的に見直し、必要に応じて研修・訓練を行うこと

等が挙げられます。

企業等における役割としては、自らの施設等の安全性の確保や防災資機材の整備など災害に備え、防災訓練等への参加など防災・減災の取組に努めるとともに、災害発生時は自らの施設の安全性等を確認し、従業員等を施設内に待機させるなど対策を行うよう努めるものとします

また、学校等においては、幼児・児童・生徒の発達段階や学校 園等の実態に応じた防災教育を実施するとともに、災害発生時は「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」に基づき、保護者等への直接引き渡し又は教職員による引率のもとで下校など、児童・生徒の安全を守るために必要な措置を講じます。

社会福祉施設においては、自主防災組織と積極的に避難行動要支援者向けの防災活動に取り組む等、災害発生時における避難行動要支援者の避難支援機能の充実を図ることが重要となります。

8 きずなネット

きずなネットは、大規模災害時に区役所から協力事業者へ一斉連絡し、避難行動要支援者の安否確認や支援などの対応を行う仕組みとして発足しました。

その後、生野区きずなネット個別計画検討会議が開催され、自主防災組織・社会福祉施設・区社会福祉協議会・地域・行政などが協力し合い、大規模災害発生時に、避難行動要支援者の支援を円滑に行うための要支援者と支援者のマッチングや継続的な話し合いや学習会などに努めてきました。

今後は、災害時に連携して避難行動要支援者の安否確認や支援などの対応を行えるよう、協力事業者への一斉連絡用通信網を配備し、個別避難計画作成を中心とした避難行動要支援者の支援に努めていきます。

9 区役所等が取り組む防災

区役所の役割として、災害時に備え、あらかじめ、

- ▶ 区民個人、地域、企業等の自助・共助の取り組みへの支援
- ▶ 災害発生時に、すみやかに実行できるための区災害対策本部等の体制づくり
- ▶ 事業継続計画(BCP)の策定や事業継続マネジメント(BCM)の実施
- ▶ 災害発生時、または、風水害等災害が発生するおそれがある場合の区役所の活動に関する備え
- ▶ 地域防災リーダーの育成(地域防災リーダーのさらなる技術・技能の向上アップ講習会の実施)
- ▶ 自主防災組織を中心として取り組む地区防災計画の作成支援、自発的な防災活動の促進
- ▶ 男女共同参画や高齢者、障がい者、ボランティア団体等、多様な主体の防災活動等への参画を促進
- ▶ 防災関係機関による防災訓練の実施(警察、消防、ライフライン事業者等)
- ▶ 区内の企業、学校等の各施設との連携
- ▶ 避難所の確保
- ▶ 避難行動要支援者への支援対策としての個別避難計画の作成支援
- ▶ 備蓄物資の充実
- ▶ 区民への防災知識の普及・啓発
- ▶ 生野区防災マップの配布
- ▶ 各種出前講座
- ▶ 学校園での幼児、児童、生徒への防災・減災教育の推進
- ▶ 生野区地域防災計画の作成

等を行い、区民の方等の生命、身体及び財産を災害から守るため、他の防災に関する組織及び自主防災組織と連携し、自主防災組織等の自発的な防災活動の促進や区役所が自主防災組織等に支援を行い、次の取り組みなどを通じて地域防災力の充実に努めます。